

■ 事業のセールスポイント

- ・エリア回遊性向上に向けたスマートサービス及びデジタルサイネージによる情報発信の実証
- ・実証及びイベント、新型コロナ感染症等の影響で来街者の回遊状況、混雑度合がどのように変化をしたのかを分析

■ 対象区域の概要

- 名称: 豊洲エリア
 - 面積: 約246ha
 - 人口: 居住人口: 約 3.7 万人¹
就業人口: 約 4 万人²
- ¹2019年1月時点 ²2018年時点  対象区域



東京都江東区豊洲1~6丁目

■ 都市の課題

課題解決+未来志向型スマートシティに向け、先端的な技術・サービスにより、新たに発生する課題を事前に予測しつつ、解決に向けた取組を進める。加えて、先進的な技術等を活用しつつ、多様なステークホルダーが相互に影響しあい、街を発展させていくことを目指す。

本実証の重点項目

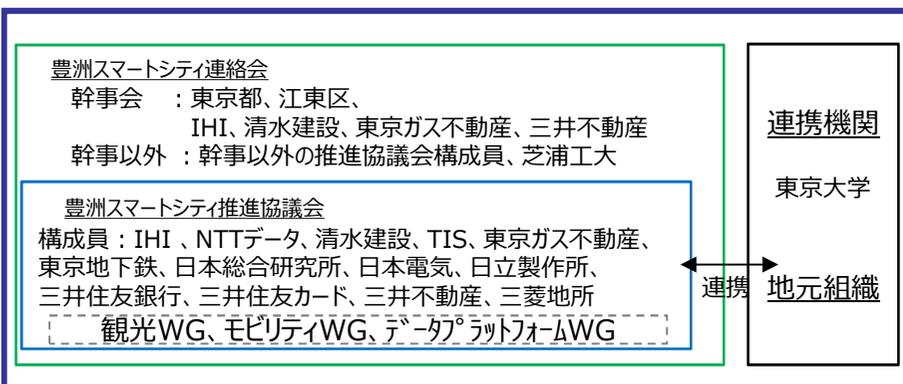
- ・エリア全体の回遊性の向上
- ・データを活用した賑わい創出

■ 解決方法

- ①店舗のリアルタイム情報発信
- ②デジタル観光マップ&スポットラリー
- ③エリアサイネージによる情報発信
- ④データに基づくエリア回遊分析



■ 運営体制



■ KPI(目標)

○実証KPI

- ・スマートシティポータルサイトへのアクセス数の増加
- ・参加者の平均移動距離の増加

■本実行計画の概要

豊洲エリアの魅力・施設、スマート化された食や移動等の都市機能をつなぎあわせ、街の課題を解決するとともに、多様な施設・個人が共存共栄しながら、未来の働き方、住まい方、遊び方を実現する「ミクスユース型未来都市」を目指す。

取組概要

遊ぶ	食べる
<p>◆スマート観光</p> <p>インバウンド観光客に対する多言語対応音声AIを活用したシームレスな案内(店舗の満空情報等)</p> 	<p>◆スマートイート</p> <p>多言語、キャッシュレス決済に対応したフードモビリティショップの展開</p> 
移動する	安心・安全になる
<p>◆スマートモビリティ</p> <p>豊洲エリア内をシームレスに周遊するパーソナル/オンデマンドモビリティサービスの提供</p> 	<p>◆AI防災</p> <p>AIを活用し、災害情報の収集・分析・整理し、適切なリアルタイム情報を伝達</p> 

都市OS・データプラットフォーム

パーチャル豊洲 (3Dモデル)

交通データ

→

・データ連携
 ・プランニング
 ・共通機能提供 (認証・決済等)

体制

<p>豊洲スマートシティ連絡会</p> <p>幹事会：東京都、江東区、IHI、清水建設、東京ガス不動産、三井不動産</p> <p>幹事以外：幹事以外の推進協議会構成員</p>	連携機関 東京大学 ↓ 連携 ↓ 地元組織
<p>豊洲スマートシティ推進協議会</p> <p>構成員：IHI、NTTデータ、清水建設、TIS、東京ガス不動産、東京地下鉄、日本総合研究所、日本電気、日立製作所、三井住友銀行、三井住友カード、三井不動産、三菱地所</p> <p>観光WG、モビリティWG、データプラットフォームWG</p>	

将来像

※導入しようとしている技術等を仮想的な街並みに表現した将来イメージ図です



健康と楽しさが融合した新たなライフスタイル

快適で自由な働き方

リアルとバーチャルが融合した豊洲でしか味わえない体験

スケジュール

※実装に当たっては、実証実験等の結果を踏まえて調整

<p>2020年度実装</p> <p>サイネージやスマホで空き情報を展開</p> <p>スマート観光 (満空サービス)</p>	<p>2021年度実装</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>スマート観光 (インクルーシブナビ、ARを活用した案内)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>スマートモビリティ (パーソナルモビリティ)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>スマートイート (キャッシュレス)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>AI防災 (情報共有)</p> </div> </div> <p style="text-align: right; font-size: small;">※実装別途協議</p>
--	---

- ・エリア回遊性向上に向けたスマートサービス及びデジタルサイネージによる情報発信の実証
- ・実証及びイベント、新型コロナウイルス感染症等の影響で来街者の回遊状況、混雑度合がどのように変化をしたのかを分析

■ 実証実験の内容

①店舗のリアルタイム情報発信

豊洲エリアの飲食店の情報発信の場となるスマートイトのページを作成(101店舗掲載)。店舗の満空情報などのリアルタイム情報をデジタルサイネージ及びポータルサイトなどから提供

②デジタル観光マップ&スポットラリー

「With/Afterコロナ」での周遊促進を目指し、豊洲における魅力的なスポットを紹介するデジタル観光マップ、スタンプラリーを実証

③エリアサイネージによる情報発信

エリアポイントにサイネージを設置し、スマートサービスやエリア情報を発信

④データに基づくエリア回遊分析

上記実証及びイベントや新型コロナウイルス感染症等の影響でエリア回遊状況や混雑度合がどのように変化をしたのかを分析



①店舗のリアルタイム情報発信



②デジタル観光マップ&スポットラリー



③エリアサイネージによる情報発信

■ 実証実験で得られた成果・知見

①まちのイベントと共にサービス進行。

サイネージを設置している施設でのイベントに合わせて、スマートシティポータルサイトのアクセス量が増加しており、スマートサービスの提供機会向上に向けて、まちイベントに併せた活用が重要。

②デジタル観光マップ&スポットラリーでの活用可能性

コロナ下で参加数が限定的であったものの、デジタル観光マップのみとスポットラリーを実施した場合の比較で参加者の平均移動距離の約47%増加等といった地域の魅力発信としてのツールとして有効性を確認。

③エリアサイネージによる情報発信の有効性

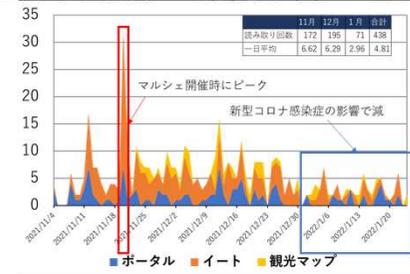
エリア情報の発信の手段としてサイネージでタッチポイントを増やすことが可能。広告を入れることで、採算性の確保も可能。

④人流センサーによる回遊性の可視化可能

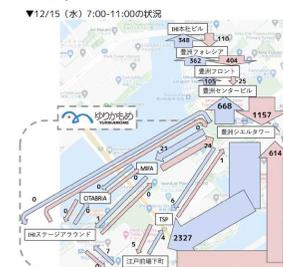
施設による滞流変化や新型コロナウイルス感染症における外出動向等の豊洲の移動実態の可視化が可能であり、スマートサービスの施策検討へ利用できる。一方で本実証ではコロナ下での影響が大きく、各サービスの影響は限定的な部分があった。

⑤豊洲エリアでの飲食関心が高い

アクセスログ、サイネージのQRの読込の回数が飲食に関わるものが多く、豊洲での飲食への関心が高いことが示唆された。



サイネージQRの読込回数



人流センサーによる回遊状況可視化

※各種データ・結果の有意性については引き続き検証を進める

- ・今回の実証実験で得られた課題を基にサービスの実装に向けた検討を進める。
- ・将来的には個々のサービスとしてでなく、スマートサービス間の連携を図り、ミクストユースに合わせたスマートサービスの提供及び、継続的なスマートサービスの実装を目指す。

■ 実証実験で得られた課題

①店舗のリアルタイム情報発信

- ・店舗情報の充実が不足、機能が限定的な部分があるため、店舗側とユーザー側とも継続的な利用がされていない

②デジタル観光マップ&スポットラリー

- ・本実証ではコンテンツの充足ができていない
- ・コロナ下の中参加者数が限定的であり、十分な検証が行えていない。
(特にスポットラリー実施には新型コロナ感染症増加傾向にあったため)

③エリアサイネージによる情報発信

- ・効率的にエリア情報を発信するにあたってエリア情報を集約する基盤の構築が必要
- ・実装に向けマネタイズには、具体的な広告の導入が必要

④データに基づくエリア回遊分析

- ・施設による滞流変化や新型コロナ感染症における外出動向等の豊洲の移動実態の可視化が可能である。一方で個々のサービスの影響は限定的な部分があった。
- ・継続的なデータの収集に向けては単一目的のみだと高コスト

■ 今後の取組：スケジュール

個々のサービスの実証

- ①店舗のリアルタイム情報発信
 - ・利用ポイント等の継続的な機能アップデート
 - ・定期的な利用方法の講習
 - ・まちイベントと合わせた利用促進
- ②デジタル観光マップ&スポットラリー
 - ・産学連携による豊洲のデジタル観光マップのアップデート
 - ・Afterコロナに向けた外国人旅行者への対応
- ③デジタルサイネージによる情報発信
 - ・エリア情報を集約する基盤を構築
 - ・エリアサイネージの実装に向けた検討
- ④データに基づくエリア回遊分析
 - ・個々のサービスの評価のアップデート
 - ・継続的なデータの収集に向けたマネタイズ方法検討

スマートサービス間の連携(CityPaSS化)

ミクストユースに合わせたスマートサービスの提供

高度なスマートサービスの実装

まち中での自動運転等の今すぐには実装できないが、将来的に期待されるスマートサービスの実装

Phase1
(2021~2022)

Phase2
(2022~2023)

Phase3
(2024~)